

家庭学習の手引き

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に、「読む」「書く」「計算」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。
学校では、「個に応じた指導」や「分かる授業」そして補習指導等を通して基礎的・基本的事項の定着を図るために努力していますが、家庭と協力することによりさらに、その定着が何倍にも高められます。つまり、家庭学習の習慣化が子どもの「生きる力」を高めるのです。
この手引きをよく目にする場所に貼っておき、家庭学習の習慣化を高めましょう。



1. 家庭での学習を習慣化しよう

(1) 学習時間のめやす

低学年 20分
中学年 40分
高学年 60分



- (2) 学力アップは規則正しい生活から
- 早寝・早起き・朝ご飯
 - テレビは1日の時間を決めてみましょう。(ゲームも時間を決めて)
 - 自分で時間割や学習用具をそろえる

- (3) 学習の3つのポイント
- テレビを見ながらしない。
 - よい姿勢です。
 - 机の上をきれいにしておく。



2. 家庭学習の参考例

- 毎日続けるもの (日記・漢字・計算・音読・ドリル)
- 学校の宿題や予習
- 自由学習 (好きな学習、伸ばしたい学習、読書など)
- 翌日の学習の準備も家庭学習の一部
- その他 (特別にしなくてはならない学習)

3. 家庭学習ができる環境づくり

- 保護者が見てあげる。
- 学習中は子どもの隣に座ったり、一緒に考えて話し合ったりする。
- 家族や地域の人を巻き込んで子育てをする。

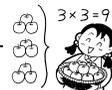
4. 各学年で身に付けたい力

習慣づけの1年生

- ひらがな、カタカナが読め書ける。
- 助詞(て、に、を、は)を適切に使って文章が書ける。
- 長音・促音・拗音を正しく書くことができる。
- たし算・ひき算ができる。
- 80字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- 鉛筆を正しく持って字が書ける。

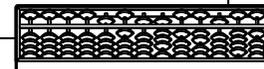
楽しく覚える2年生

- 160字の担当漢字の全てが読め、8割の漢字が書ける。
- 順序よくお話をすることができる。
- 九九がすらすら言える。
- 位をそろえて筆算ができる。
- 決められた長さの直線を正しく引ける。
- 時計が読める。



分岐点の3年生

- 200字の担当漢字の全てが読め、8割の漢字が書ける。
- 短い詩が暗唱できる。
- 簡単な言葉を辞書で引ける。
- 主語と述語の意味が分かる。
- わり算ができる。
- はかりを使って重さが読める。



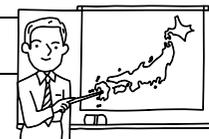
「9歳の壁」を乗り越える4年生

- 200字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ローマ字を適切に読み書きできる。
- 文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
- 国語辞典・漢和辞典を正しく使える。
- わり算の筆算ができる。
- 倍を使った文章題が正しく解ける。
- コンパスを使って簡単な図がかける。
- 地図を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。



いろいろな個性が際立つ5年生

- 185字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が読める。
- 今までに習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- 小数のかけ算やわり算ができる。
- 分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- 割合・百分率を使った問題が解ける。
- 47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。
- 日本の産業について、資料集を使って調べることができる。
- リコーダーで習った曲を演奏できる。
- 自分の体力にあった運動をして体を鍛えることができる。



中学校生活に希望がもてる6年生

- 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。(6年生は181字)
- 小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- 歴史に残る古文のいくつかにふれ、暗唱できる。
- 分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- 歴史上の事件や人物についてだいたい説明できる。



- 重要な年号を10程度言える。
- 世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- 理科の実験器具の正しい使い方を知っている。
- パソコンでローマ字入力ができる。



学力向上は、家庭学習の習慣化から